中越 たんの社会科見学 ② 美術館巡り

心癒やす色のマジック

夏はインドア派の記者には少しつらい季節。涼しい秋が待ち遠しい。中越地域には廃校などを活用したユニークな美術館が多い。一足早く、〝芸術の秋〟を探りに出掛けた。

長岡市の宮内商店街を歩くとレトロ感が漂う建物があった。「秋山孝ポスター美術館長岡」だ。北越銀行の前身、旧長岡商業銀行宮内支店だった建物を利用したとのこと。館内の壁一面にはカラフルなポスターがずらりと並ぶ。

青の背景に白、黄、オレンジの無数の輪が降り注ぐ様子が描かれた作品が目に留まった。鈴木牧之の「北越雪譜」に出てくる「雪」を抽象化したものと知ると、見ているだけでちょっぴり涼しくなってくる。

次は大地の芸術祭で有名な十日町市の「絵本と木の実の美術館」に向かった。

山あいにあるこの美術館は芸術祭で、絵本作家の田島征三さんが旧真田小校舎を〝キャンバス〟として利用し、閉校時の最後の児童3人を主人公にした物語を表現した「空間絵本」だ。

色とりどりの絵の具が塗られた流木オブジェが展示され、児童が元気よく走り回っていた当時の情景を想像しながら巡った。

カラフルな楽器の部屋で1台の自転車を発見。ペダルをこいでみた。「ドン」「ド、ドン」。自転車をこぐ力によって、流木オブジェが太鼓をたたき始めた。

新潟市西区から来たという主婦小林秀子さん(64)は「いろいろな仕掛けがあって色彩もきれい。楽しい」と笑顔だ。

十日町市内には、同様に廃校となった小学校を改装した「ミティラー美術館」もあった。数千点のインド民俗絵画を所蔵する館内は異国ムードが漂う。ミティラー画と呼ばれるインドで古くから伝わる民俗画などが無造作に並んでいる。

「なぜここでインド?」。長谷川時夫館長(68)がミティラー画家の作品の美しさに魅了されたというのが理由らしい。繊細な線と鮮やかな赤色が点在する配色がとてもきれいだ。

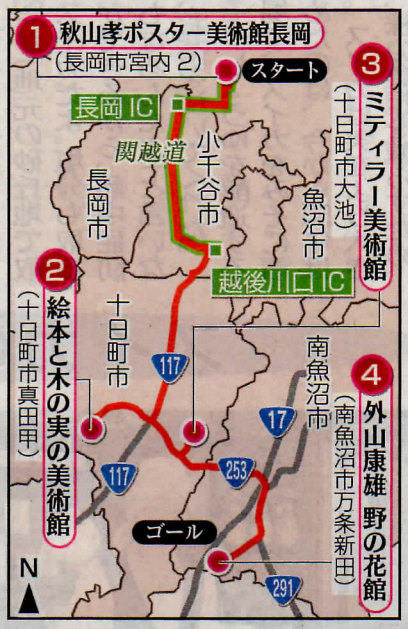
最後は癒やしを求めて南魚沼市の「外山康雄 野の花館」へ。ワレモコウなど野の花を実寸大で描いた水彩画が並び、その隣にモデルの草花も置かれている。花の状態によって展示作品を変えるというから驚きだ。

家族で来館していた群馬県の会社員佐藤瑞紀さん(23)は「落ち着いた雰囲気に癒やされた」と満足そう。優しい色使いの水彩画が、柔らかな光に照らされている。見ていると、記者もほんわかとした気持ちになってきた。

芸術は地域や人との新たな出会いの可能性を秘めていると思う。県内各地の「知る人ぞ知る」とされる美術館も訪ねてみたくなった。芸術の秋はもうすぐだ。

廃校になった校舎全体で一つの物語を表現する「絵本と木の実の美術館」。館内には、流木や木の実を使ったオブジェをはじめ、斬新な仕掛けがちりばめられている＝十日町市真田甲

（長岡支社・田原愛理）



約60点のポスターが並ぶ「秋山孝ポスター美術館長岡」。ＪＲ宮内駅や佐渡島といった越佐の風景を描いた作品もある＝長岡市宮内２

インド芸術を専門とする「ミティラー美術館」。ミティラー画のほか、立体彫刻・テラコッタなどの作品も数多く並ぶ＝十日町市大池

野の花を描いた水彩画約90点を展示する「外山康雄 野の花館」。水彩画がプリントされたポストカードや食器といった土産も充実している＝南魚沼市万条新田